

平成26年度決算

亀山市

平成26年度つうしんぼ

わかりやすい決算書

平成26年度 決算

平成26年度の一般会計、特別会計、企業会計の決算が市議会で認定されました。

平成26年度は、厳しく先行き不透明な財政状況の中、第1次総合計画後期基本計画の4つの戦略プロジェクト（まち守り・まち磨き・みんな健康・子ども輝き）を中心に、さまざまな施策に力を注ぎました。

「平成26年度つうしんぼ」では、皆さんに納めていただいた税金や、国・県から市に入ったお金がいくらで、どのように使われたか、また、市の財政状況はどうなっているのか、詳しくお伝えします。

一般会計

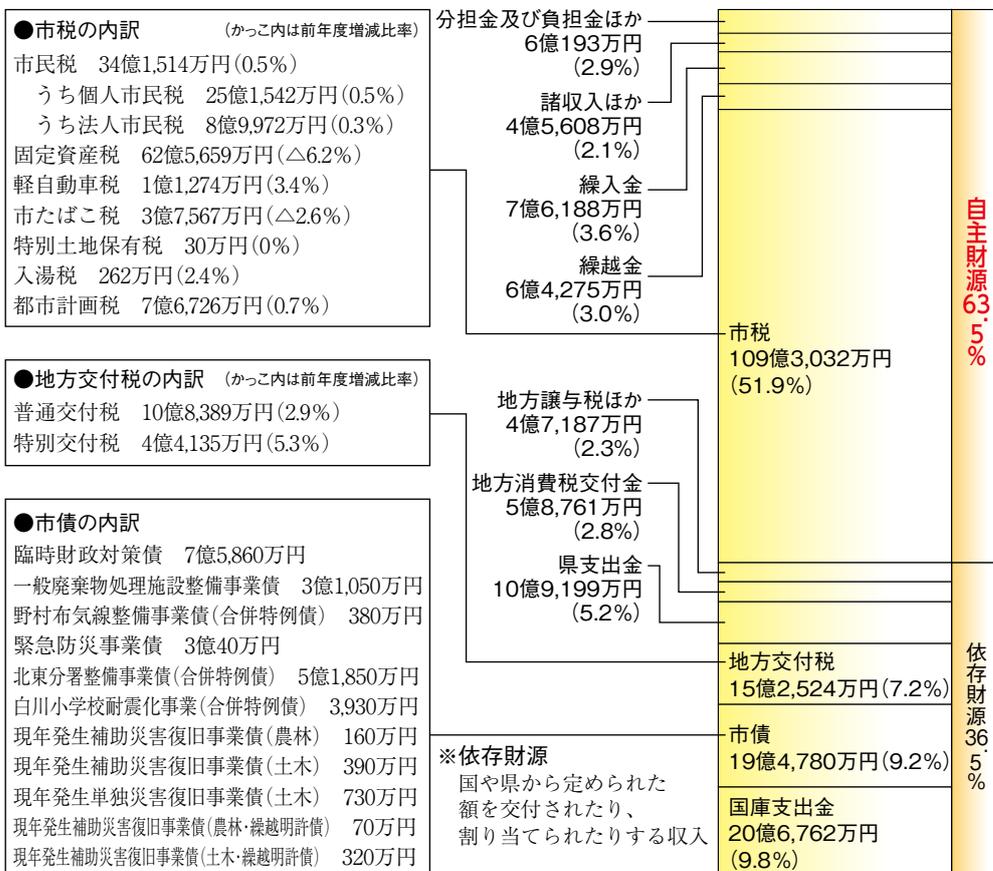
一般会計の歳入は210億8,508万円、歳出は201億9,831万円。歳入歳出差引額は8億8,677万円、翌年度に繰り越す財源を控除した実質収支額は7億2,545万円の黒字となりました。

歳入 210億8,508万円

歳入は前年度より約7千万円減少した決算となりました。

市税収入が前年度より約4億円減となったものの、基金等からの繰入金を約3億円増やし、自主財源は前年度より約7千万円減少に留めました。構成比も歳入全体の63.5%で、前年度比で0.1%下がりました。

依存財源は、前年度の臨時的な措置分であった約2億円が減少となったが、地方交付税や地方消費税交付金が増となったことにより、前年度並となり、構成比は全体の36.5%を占めています。



まち
守り

北東分署建設事業
5億9,502万円



北東部地域における消防力の充実・強化を図るため、北東分署の建設工事を行いました。

まち
磨き

かめやま文化年事業
1,630万円



「暮らしの中の文化」を再発見、再認識することで、自分たちの文化や地域に愛着と誇りを持つ契機となるよう「みつめる」をキーワードに「かめやま文化年2014」に取り組みました。

みんな
健康

介護予防事業
1,264万円



高齢者が健康寿命を延ばし、地域で生きがいを持って生活ができるようにするため、要支援・要介護状態に移行することがないように介護予防教室の開催などの取り組みを行いました。

子ども
輝き

放課後子ども教室推進事業
1,449万円

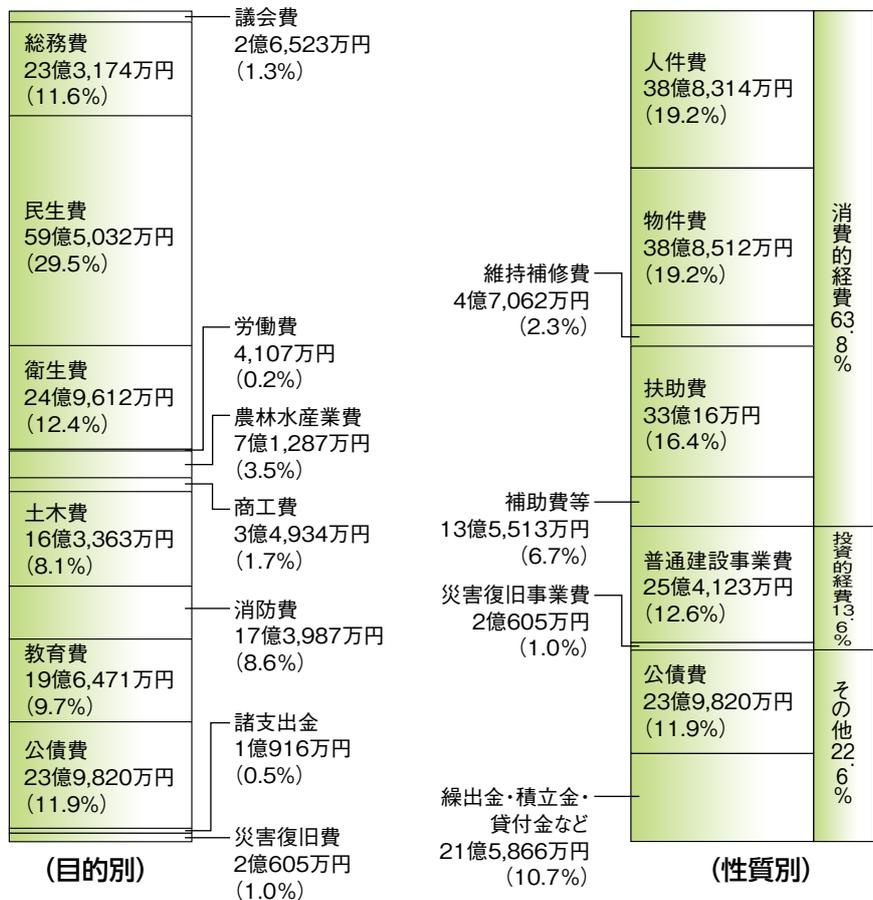


子どもたちが健やかに育まれる環境づくりを推進するため、全小学校区で放課後子ども教室推進事業を実施しました。

歳出 201億9,831万円

歳出は前年度より約1億8千万円増加した決算となりました。

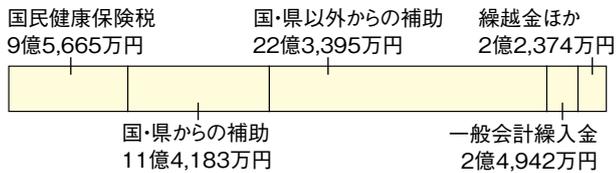
性質別で見ると、義務的経費は、人件費の増などにより、前年度と比べて約1億2千万円増加し、また、その他の経費として、物件費・繰出金などの増により、前年度と比べて約3億円増加しています。投資的経費は、前年度と比べて約2億4千万円減少しました。溶融施設長寿命化事業や和賀白川線整備事業などが完了したことが要因となっています。



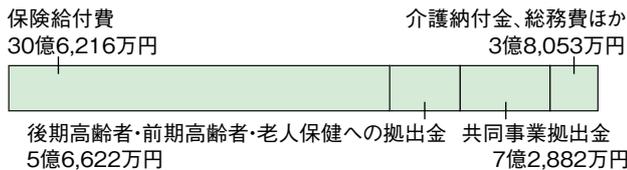
国民健康保険事業

平成26年度末の加入世帯数は6,365世帯、被保険者数は10,577人。医療費(自己負担分を除く)を保険給付費として国民健康保険会計から支払っています。

歳入 48億559万円



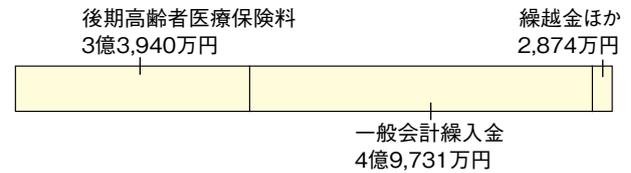
歳出 47億3,773万円



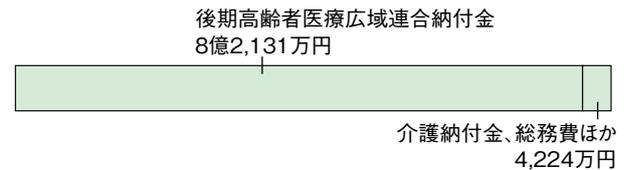
後期高齢者医療事業

75歳以上(一定の障がいがある場合は65歳以上)の高齢者を対象とした医療制度で、平成26年度末の被保険者数は6,058人です。

歳入 8億6,545万円



歳出 8億6,355万円



特別会計

特定の事業を行う場合に、特定の歳入をもって特定の歳出に充て、一般の歳入歳出と区分して経理する必要がある場合、一般会計とは別に特別会計を設けています。

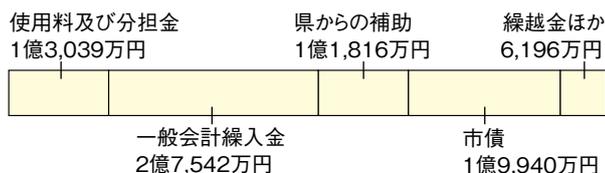
市では4つの特別会計があり、特別会計全体の決算額は、歳入が79億8,705万円、歳出は77億8,615万円、歳入から歳出を差し引いた額から、翌年度に繰り越す財源を控除した実質収支額は2億16万円となりました。



農業集落排水事業

平成26年度末に昼生地区が供用開始し、中庄町・三寺町・下庄町地区における利用が可能になりました。これにより、市内で計画されている全14地区にて排水処理施設が稼動し、2,788戸が加入しています。

歳入 7億8,533万円



歳出 7億8,071万円



公共下水道事業

三重県の流域下水道事業の関連事業として下水管渠の整備を進めており、平成26年度末には供用面積750.5ha、処理区域内個数8,186戸、普及率48.1%になりました。

歳入 15億3,068万円



歳出 14億415万円



水道事業

水道施設の耐震化を踏まえ、施設の更新を行い、給水については人口49,740人に1日平均17,891m³を給水しました。

収益的収支(水道料金などでの収支)	
水道事業収益	13億6,472万円
水道事業費用	12億4,589万円
差引額	1億1,883万円
資本的収支(施設建設などでの収支)	
資本的収入	6,309万円
資本的支出	50,612万円
差引額	△44,303万円

工業用水事業

工業用水として、供給先2件に対し1日平均2,210m³を供給しました。

収益的収支(工業用水道料金などでの収支)	
工業用水道事業収益	8,031万円
工業用水道事業費用	6,915万円
差引額	1,116万円
資本的収支(施設建設などでの収支)	
資本的収入	0円
資本的支出	5,434万円
差引額	△5,434万円

企業会計

地方公営企業法の適用を受けて設置する自治体でも収益が認められている特別な会計であり、原則として独立採算制による業務運営が求められています。

平成26年度決算では、水道事業など3つの企業会計があります。



病院事業

病床数は100床(60床運用をしています)で、入院は年間延べ18,584人、外来は年間延べ40,166人が受診しました。

収益的収支(経常収支)	
病院事業収益	15億2,833万円
病院事業費用	17億933万円
差引額	△1億8,100万円
資本的収支(施設建設などでの収支)	
資本的収入	3,787万円
資本的支出	8,813万円
差引額	△5,026万円

一般会計からの繰入金

下記の特別会計や企業会計では、その収入だけで運営できないため、一般会計からの繰り入れを行っています。一般会計側から見ると「繰出金」となります。

特別会計

会計名	繰入金額
国民健康保険事業	2億4,942万円
後期高齢者医療事業	4億9,731万円
農業集落排水事業	2億7,542万円
公共下水道事業	3億9,611万円

企業会計

会計名	繰入金額
病院事業	3億1,902万円

財政指標

自治体の財政状況を分析するための、さまざまな指数を総称して「財政指標」と呼んでいます。財政指標を見ると、亀山市が財政的に健全なのか、そうでないのかわかります。指標に加えて、市債や基金の残高をグラフで表し分析しました。

経常収支比率 87.0%

「経常的に収入された一般財源」が「経常的経費」にどのくらい充当されているか、その割合を示したもので、財政構造の弾力性を示す指標であり、比率が低いほど弾力性が大きいことを示しています。一般的には75%程度が妥当と考えられ、80%を超えると弾力性を失いつつあると言われています。



地域包括支援事業

3,714万円



高齢者が安心して暮らせるよう、地域包括支援センター等を通じて、高齢者のニーズや状態に応じた地域包括ケアを行いました。

関宿重伝建選定30周年記念事業

751万円



平成26年12月に関宿が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されて30周年の節目を迎えたことから、市民の意識高揚を図るため、シンポジウムの開催や記念誌の発行などに取り組みました。

財政力指数

0.973

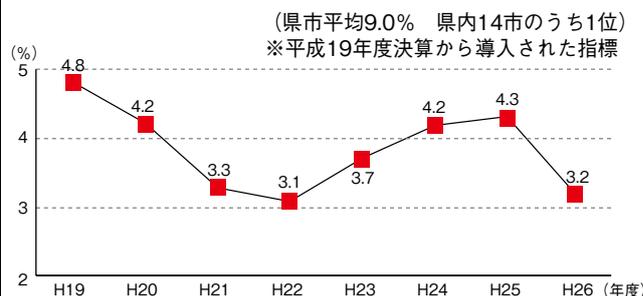
地方公共団体の財政力を示すもので、一般財源の必要額に対し、市税等の一般財源収入額がどの程度確保されているかを表しています。指数が「1」に近い団体ほど財源に余裕があり、「1」を超えると普通交付税の不交付団体となり、標準的な水準以上の行政を行うことができます。



実質公債費比率

3.2%

一般会計等の支出のうち、義務的に支出しなければならない経費である公債費などを、一般財源の標準的な規模を表す標準財政規模を基本とした額で除したものです。

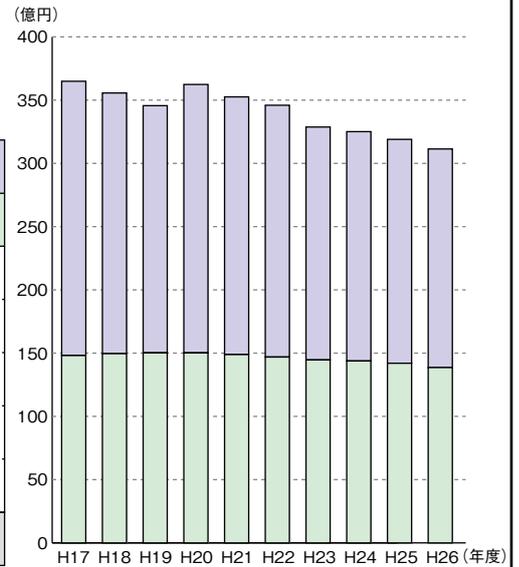


地方債残高 約314億円

市債は公共施設の建設など、一時的にたくさんのお金が必要な場合の借金で、将来、返済しなければなりません。

これまでに借り入れた市債の残高は約314億円となりました。平成26年度には、新たに約25億円を借り入れていますが、将来の財政負担を考慮し、交付税算入があるものなど、有利な市債のみの借り入れにとどめた結果、市債残高は6年連続で減少しています。

一般会計	173億7,491万円
特別会計等	140億1,193万円
農業集落排水事業	33億1,383万円
公共下水道事業	79億4,910万円
水道事業	21億2,860万円
工業用水道事業	2億9,290万円
病院事業	3億2,750万円
合計	313億8,684万円



ごみ溶融処理施設長寿命化事業

3億3,701万円

ごみ溶融処理施設の延命化と二酸化炭素排出量削減を目的として、平成24年度から基幹的設備改良工事を実施し、平成26年度をもって全工事を完了しました。

地区コミュニティセンター充実事業

9,129万円

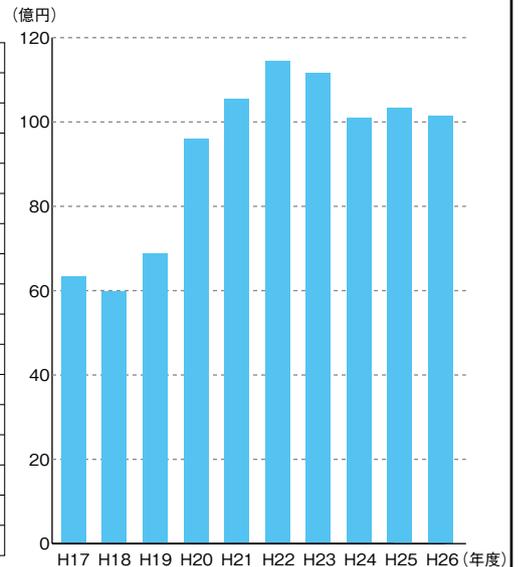
市内産木材の利用を図り、神辺地区コミュニティセンターの整備工事を実施しました。また、関南部地区コミュニティセンターの建設については、用地の確保および設計業務を行いました。

基金残高 約102億円

法律や条令に基づいて設置される基金は、特定の目的のために活用することができます。

亀山市には平成26年度末で16の基金があり、残高は約102億円となりました。年度間の財源の不均衡を調整するための基金である財政調整基金については、市税の減収などにより繰り入れを行ったため、平成26年度で24万円減少しました。

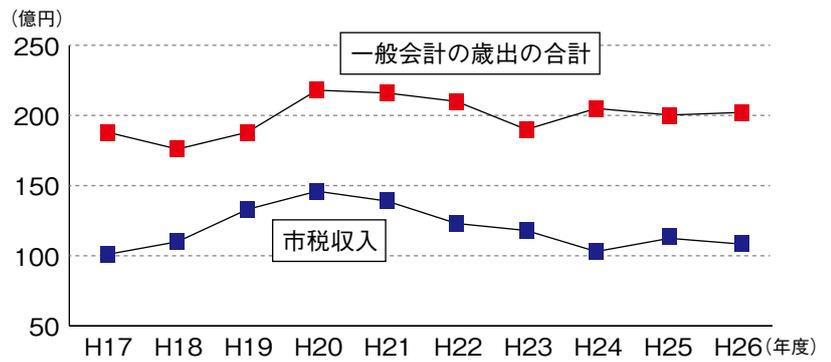
財政調整基金	44億5,163万円
減債基金	4億3,163万円
国民健康保険給付費等支払準備基金	65万円
リニア中央新幹線亀山駅整備基金	15億90万円
下水道事業基金	2億8,458万円
農業集落排水事業償還基金	1億7,503万円
地域福祉基金	2,784万円
公共施設等基金	3,789万円
ふるさと・水と土保全基金	1,834万円
ボランティア基金	905万円
伝統的建造物群保存基金	668万円
庁舎建設基金	9億5,000万円
市民まちづくり基金	9億9,604万円
閑宿にぎわいづくり基金	3億6,860万円
土地開発基金	8億9,072万円
みえ森と緑の県民税市町交付金基金	240万円
計	101億5,198万円



決算経過

亀山市は、今後の市税の減収や普通交付税の段階的な減額が見込まれる中で、創意工夫の行政運営が求められています。

一般会計の歳出の合計と市税収入の推移



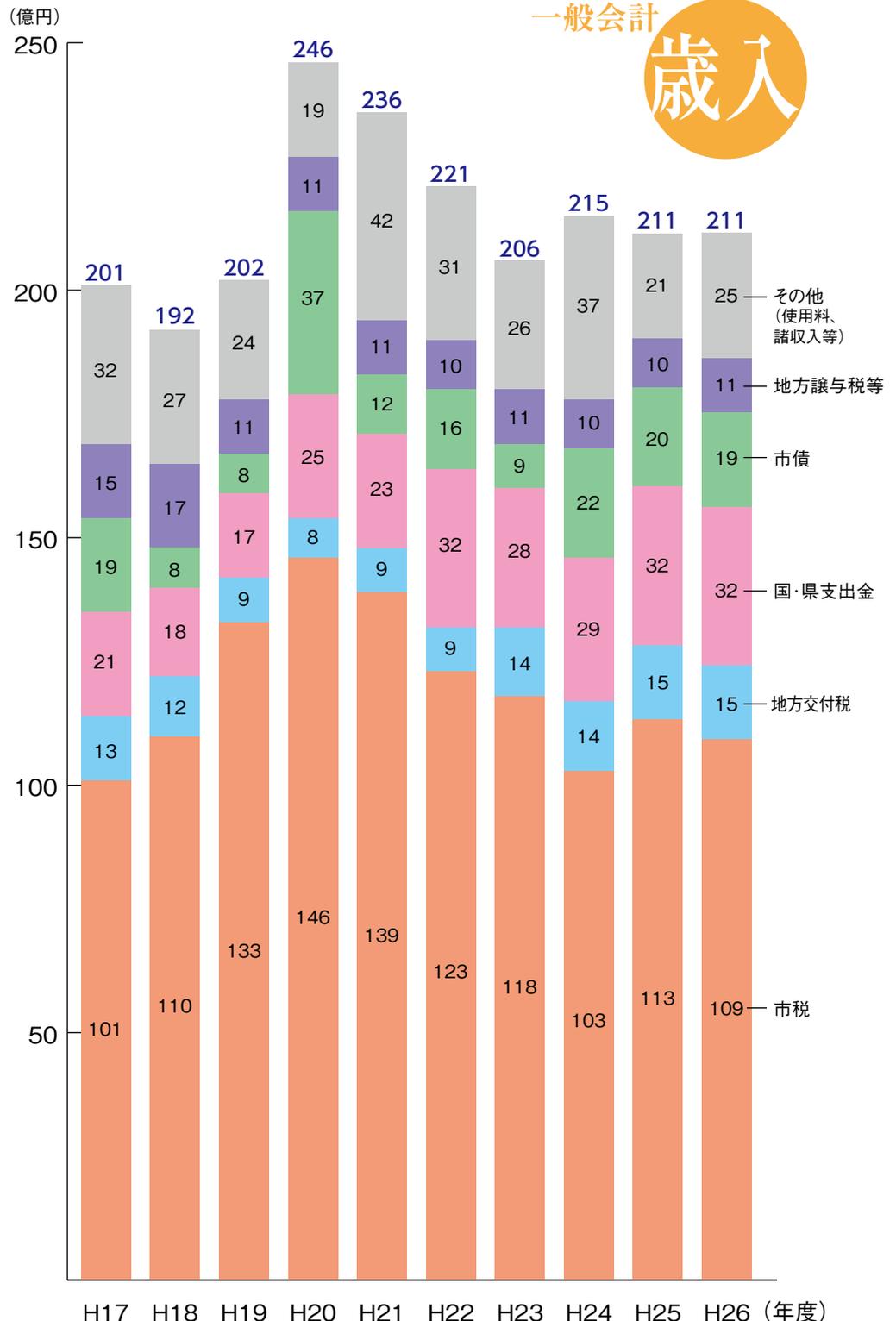
歳入の経過

人口はほぼ5万人で推移していますが、市税収入は平成20年度の146億円をピークに平成24年度まで減り続け、平成25年度決算では113億円と一時増収となりましたが、平成26年度決算では109億円となり、前年度より4億円の減収となりました。今後も引き続き厳しい状況が続くことが予想されます。

また、国・県支出金は32億円、地方交付税は15億円で、前年度とほぼ同額となりました。

市債(借金)は、ごみ溶融処理施設長寿命化整備事業、北東分署整備事業などの財源を借り入れましたが、前年度より6千万円減の19億5千万円となりました。

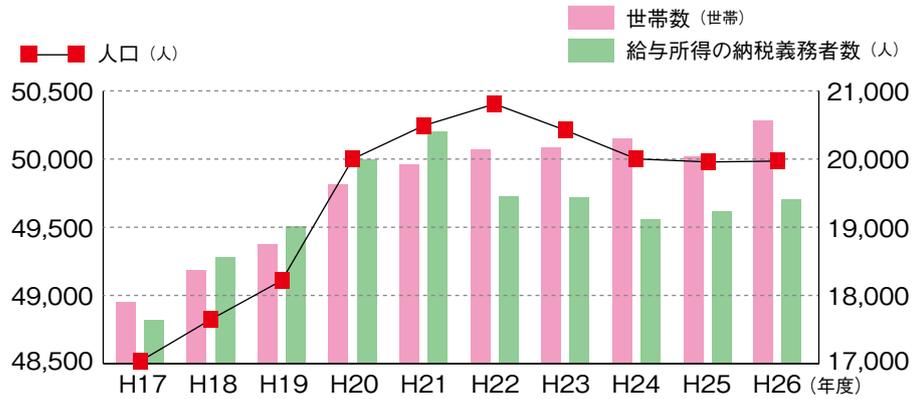
その他の収入は、使用料や諸収入など25億円で、前年度より4億円の増となりましたが、これは市税収入などの減収に伴い、財政調整基金からの繰入金を増としたことが主な要因となっています。



人口・世帯数・

納税義務者数の推移

※人口と世帯数は4月1日現在
 ※給与所得の納税義務者数は7月1日現在



歳出の経過

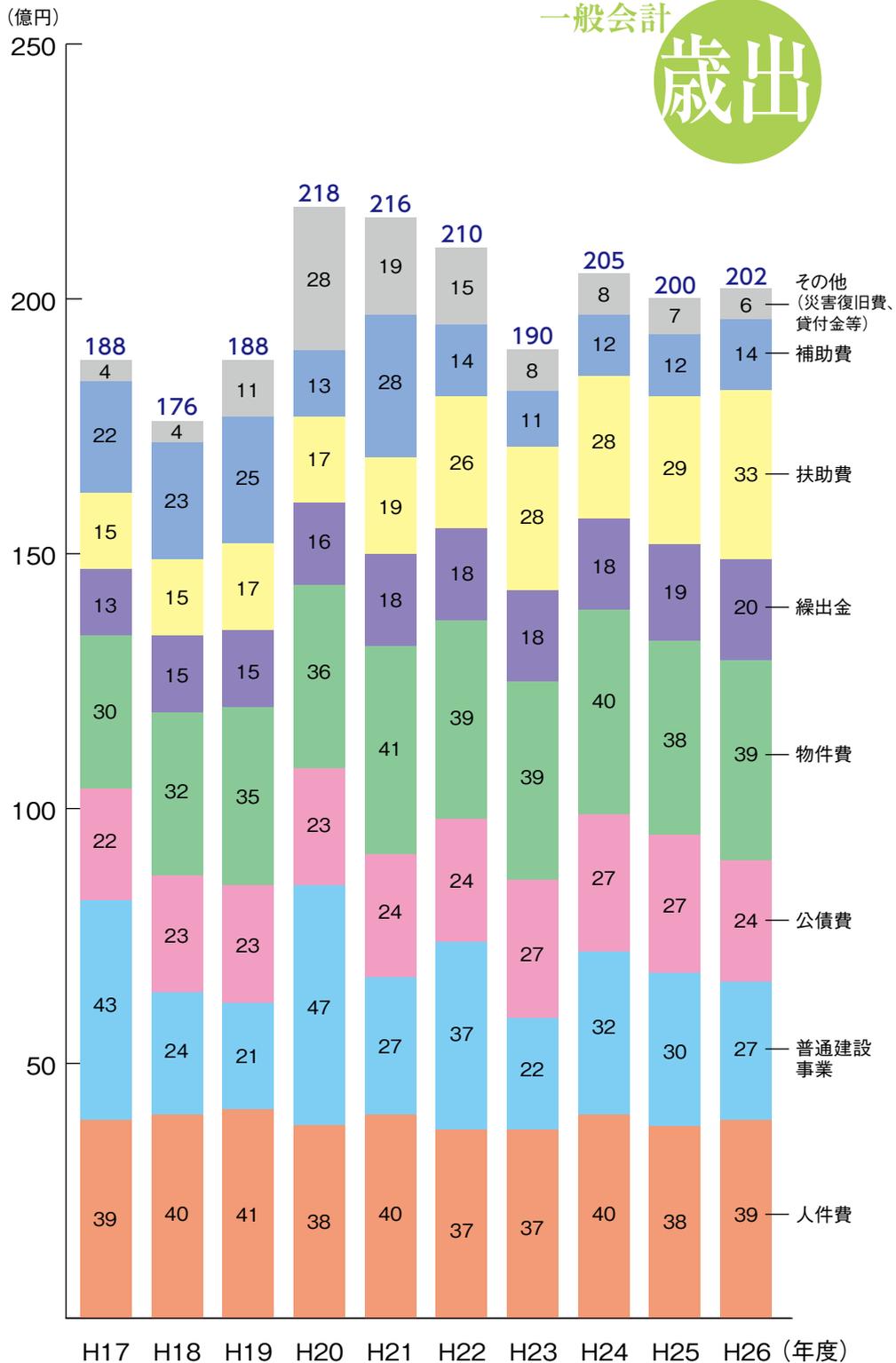
人件費については、人事院勧告に基づくものとして、前年度より1億円増の39億円となりました。

また、扶助費については、前年度より4億円増の33億円、補助費においても前年度より2億円増の14億円となり、社会福祉・児童福祉事業費の増加により、年々増加傾向にあります。

普通建設事業については、前年度より3億円減の27億円となり、主な事業として、総合環境センターにおけるごみ溶融処理施設の長寿命化事業に取り組んだほか、北東分署整備事業などの消防施設整備事業、白川小学校耐震化事業などの教育施設整備事業の執行によるものです。

公債費(借金の返済)は、前年度より3億円減の24億円となり、繰出金においても前年度より1億円増の20億円となっています。

物件費については、前年度より1億円増の39億円となりましたが、歳出全体の約2割を占めていることから、引き続き、ごみ溶融処理施設や教育施設など各種施設の運営に係る経費削減を図る必要があります。



亀山家(市)

年収420万円の
家計に例えると
(市決算の約1/5000)

平成26年度の一般会計決算を約5,000分の1にして、家計簿に例えてみ
市の予算はさまざまな種類の歳入と支出があり、一般の家庭とは少し



大事に使ってね。

市税

皆さんから納めていただいた税金。
市民税、固定資産税、たばこ税など

地方交付税

国税のうち市の取り分として
交付されたお金

譲与税・交付金

国税・県税のうち市の取り分として譲与・
交付されたお金

諸収入

延滞金、預金利子、
貸付金元利収入、雑入など

使用料・手数料

市営施設の使用料や住民票の写しの
交付手数料など

国庫支出金

国と市が共同で行う事業のために国が
市に支出したお金

県支出

県が市に対して支出したお金

市債

市が国や銀行から借りたお金

繰入金

市の基金から引き出したお金

繰越金

前年度に残ったお金

給料(基本給)が減っ
たから、おじいちゃん・おばあちゃんの
仕送りはとても感謝
しています。



収入

25年度からの
増減

現金収入合計 354万円 (-5万円)

① 給料(基本給) 225万円 (-7万円)

② 給料(諸手当) 52万円 (+3万円)

③ パート収入 14万円 (-1万円)

④ 祖父母からの仕送り 63万円 (0万円)

⑤ ローン(借入金) 39万円 (-1万円)

⑥ 貯金取り崩し 15万円 (+6万円)

⑦ 繰越金 13万円 (+1万円)



給料は、諸手当が毎年
変わるから安定しないのね

収入合計 420万円 (+11万円)

貯金残高 180万円 (-2万円)

平成26年度の家計は

平成26年度の家計は、生活費の節約に努めましたが、基本給やり崩して家計をやりくりすることとなりました。

しかし、家計に占める割合が大きい医療費や子どもへの仕送り築や改修に伴う支出が今後も増える見込みです。また、ローンのいます。

基本給と祖父母からの仕送りの増加については、臨時的なものをめるのはもちろん、その他の出費についても無駄がないか徹底的小限にとどめるなど、家計の安定に向けてより一層の努力が必要



の家計簿



ました。
違った内容となっていますが、亀山家の年間の家計簿をつくってみると…

支出

25年度からの
増減

生活費合計	263万円 (+12万円)
食費	67万円 (+3万円) ①
医療費	65万円 (+7万円) ②
光熱水費など雑費	83万円 (+5万円) ③
車などの修理代	9万円 (+1万円) ④
教育費	39万円 (-2万円)
子どもへの仕送り	39万円 (+2万円) ⑤
ローン返済	48万円 (-6万円) ⑥
家や庭の建築・改修	49万円 (-2万円) ⑦
貸付など	3万円 (+1万円) ⑧
貯金など	1万円 (-1万円) ⑨
支出合計	402万円 (+5万円)
余り	18万円 (+5万円)
ローン残高	346万円 (-4万円)

人件費

市職員の給料や議員報酬など

扶助費

生活保護、障がい者支援、医療費助成など
福祉に使ったお金

物件費

光熱水費、消耗品費、業務委託料など

補助費等

報償費、負担金、補助金など

維持補修費

道路、公共施設を維持するために必要なお金

教育費には人件費や物件費、
普通建設事業費などが
含まれています。

繰出金

下水道事業や介護保険などの他の会計
への繰越金

公債費

市債の元金・利子や一時入金の子

普通建設事業費

道路・学校・庁舎など、公共・公用施設の
新築・改修に使ったお金

災害復旧事業費

大雨、暴風などの災害により被災した
設備を復旧するためのお金

貸付金

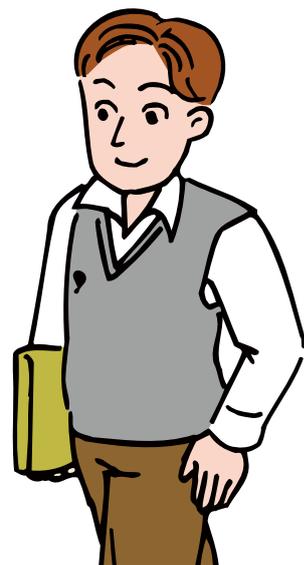
福祉増進や地域振興のための貸したお金

積立金

将来の財源変動に備えて積み立てたお金

ローンの返済もあって、
子どもの仕送りも必要
だから大変なんだ。

医療費だけでなく子
どもの仕送りも増え
たから、お金の使い
道を慎重に考えない
とだめだね。



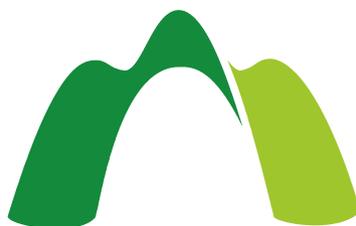
祖父母からの仕送りが思ったよりも増えなかったため、貯金を取

などは依然として高額であり、家や庭についても老朽化のため改
修高は少しずつ減少しているものの、返済は出費の重荷になって

であることから、今後も厳しい状況が続くなか、節電や節水に努
に見直して節約に努め、ローンの借り入れや貯金の取り崩しを最
です。



豊かな自然・悠久の歴史
光ときめく亀山



平成26年度決算 亀山市

わかりやすい決算書

平成26年度
つうしんぼ

編集・発行 亀山市企画総務部広報秘書室
〒519-0195 三重県亀山市本丸町577番地
TEL 0595-82-1111(代) FAX 0595-82-9955